

## 第36回定時株主総会 質疑応答のご報告

2026年3月24日に開催いたしました第36回定時株主総会において、株主の皆様よりいただいたご質問と、当社からの回答の要旨を以下の通りご報告申し上げます。

### 1. 経営責任・コーポレートガバナンスについて

- **ご質問：株価の低迷および2期連続の業績計画未達に対する経営責任をどう考えているか。現経営陣の退任の意思はあるか。**

回答：株価の下落および計画未達について、経営トップとしてその責任を重く受け止めております。現時点で退くことが責任を果たすこととは考えておらず、今期導入した「CXO体制（経営の監督と業務執行の分離）」により、特定の個人に依存しない体制で着実に結果を出すことが、最大の経営責任の遂行であると考えております。

- **ご質問：創業者の荒木氏が取締役に戻るとの具体的な目的は何か。**

回答：主な目的は、次世代経営者の発掘と育成（サクセッションプラン）を加速させること、および当社が本来持つベンチャースピリットを再注入することにあります。また、同氏のグローバルな知見を活かし、スピード感のある事業展開を支援する役割も担います。

- **ご質問：買収防衛策の導入についてどのように考えているか。**

回答：現時点では導入しておりません。企業価値そのものを高めることが最大の防衛策であると考えておりますが、万一、当社の価値を著しく毀損するような買収提案がなされた場合には、株主の皆様の利益を最優先に適切に対応してまいります。

### 2. 株主還元・株価対策・株式の需給について

- **ご質問：大株主（創業者や提携先など）による株式売却の懸念があるが、現状をどう捉えているか。**

回答：創業者（荒木）の株式異動につきましては、資産管理会社等の間での口座移動に伴う名義変更であり、実質的な株式売却の事実は認識しておりません。また、提携先である株式会社オープンドアにつきましても、事業連携を進める中で当社の将来性を高く評価いただいております。現時点において株式売却に向けた動きがあるとは認識しておりません。どうぞご安心ください。

- **ご質問：株価低迷を受け、自社株買いや株主優待などの還元策を早期に実施すべきではないか。**

回答：過去の赤字により現在は配当原資が不足しておりますが、利益の積み上げに加え、資本組み換え等の手法による原資確保も視野に入れ、検討を進めております。新たな経営体制のもと、適切なタイミングで具体的な還元アクションをお示しできるよう、最優先課題として取り組んでまいります。

- **ご質問：来期に向けた具体的な株価目標はあるか。**

回答：具体的な数値の明言は差し控えますが、上場時の株価水準や時価総額 100 億円といったラインは、当社が満たすべき最低限の基準であると認識しております。市場からの適切な評価を獲得できるよう、対話の充実と企業価値向上に努めます。

### 3. 子会社リンクティビティの運営と管理体制について

- **ご質問：本年 1 月に公表された子会社での不正事案（資金流出）の詳細と再発防止策は。**

回答：代表者を装ったなりすまし詐欺により、不当な振り込み指示に従ってしまった事案でございます。現在はリスクマネジメント委員会を設置し、決済承認プロセスやワークフローの調査・強化を徹底しており、異常を未然に防ぐ組織風土の構築に注力しております。

- **ご質問：リンクティビティ事業の実態が見えにくい。今期も赤字が続く見通しか。**

回答：B2B 事業という特性上、分かりにくい点は認識しております。今期は IR・PR を強化し、事業価値をより透明性高くお伝えしてまいります。収益性については、赤字幅を大幅に縮小させることにコミットし、成長投資とのバランスを最適化しながら黒字化を目指します。

### 4. 事業戦略（OTA・新規事業・提携・M&A）について

- **ご質問：新事業「ベルトラクルーズ」の競合他社に対する差別化要因は何か。**

回答：他社が人海戦術で行っている予約・管理業務を、当社は AI とシステムによる「リアルタイム連携」で徹底して効率化している点が最大の強みです。膨大な商品ラインナップを最小限の投資で提供できるモデルを構築しており、クルーズを新たな旅行の選択肢として定着させてまいります。

- **ご質問：M&A の検討に伴う新株発行（株式の希薄化）の懸念についてどのように考えているか。**

回答：現時点において、具体的な M&A 案件やそれに伴う資金調達を検討している段階ではございません。一方で、企業価値の向上や最適な事業ポートフォリオ構築において、M&A は重要な選択肢の一つであると考えております。ノーチラスキャピタルとの取り組みは、将

来、必要な際に適切な投資判断を下せるよう、基準や体制を整備するための準備でございます。今後 M&A を推進する際には、その目的や成長戦略、資金調達的手段等について、株主の皆様にご理解いただけるよう丁寧に説明させていただきます。

- **ご質問：JT B などの大手企業による救済（子会社化）を検討し、信用補完を図る考えはないか。**

回答：貴重なご提案として承らせていただきます。現在は多様な仕入れ先の一つとして良好な関係を築いておりますが、具体的な資本関係の変化については、現時点でお答えできる段階にはございません。

- **ご質問：生成 AI の進化をどのように事業成長へ結びつけるのか。**

回答：当社が保有する膨大なアクティビティデータを活用し、顧客体験の劇的な向上と、業務生産性の極限までの追求を図ります。AI を組織の一部として組み込むことで、投資効率を最大限に高めた筋肉質な経営を実現してまいります。

以上